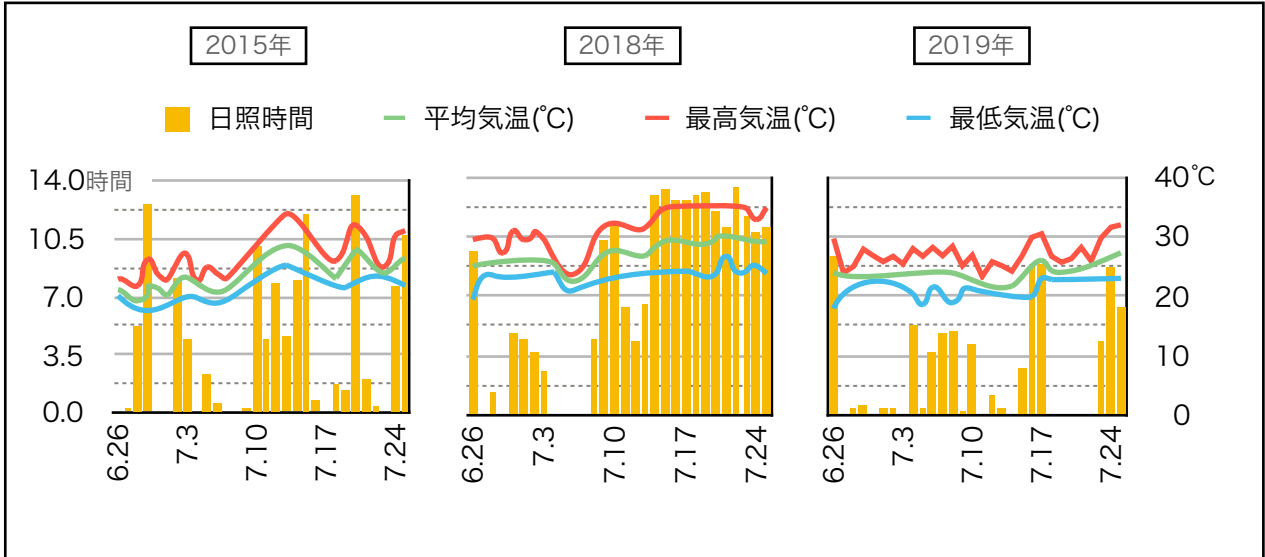


Yamakado News Letter



今年の7月は日照時間が少ない傾向



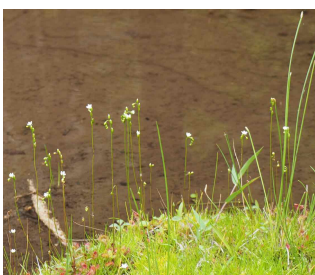
ウェザーニュースによれば、7月1日から18日までの日照時間は東京が9.6時間(平年の13%)、前橋で13.5時間(同19%)と、関東では記録的な日照不足になったようです。山門水源の森でも雨や曇りの日が多い印象でしたが、実際はどうだったのでしょうか。山門水源の森に近い観測点の今津アメダスから、2014年から今年の6年間の、各6月26日から7月25日までの日照時間と最高・平均・最低気温のデータをダウンロードして比較してみました。そのうちの日照時間最小の2015年、最大の2018年、それと今年のデータをグラフ化しました。それが上の図です。気温も日照時間に連動して2018年に比べ、2015年の方がやや低めに推移しています。今年はその2015年と比べても日照時間が少なく、気温も更に低めで推移しました。

こうしたことが何か森の生き物に影響が出ているのでしょうか。過去の報告書から時期に開花する付属湿地のモウセンゴケ、クサレダマ、サギソウ

の初開花日とヒグラシの鳴き始めを記録した日付植物の開花状況の記録などを検索し、比較をしてみました。観察は毎日ではありませんので記録漏れもあり、記録日には数日の誤差を含みます。

	2017	2018	2019
付属湿地 モウセンゴケ開花		7月3日	7月7日
付属湿地 クサレダマ開花		7月11日	7月10日
付属湿地 サギソウ開花	7月27日		7月26日
ヒグラシ鳴き始め		7月14日	7月25日

そうした前提はありますが、それでも開花時期のズレはほとんど無いとみていいようです。付属湿地の植物は貧栄養植物といわれていますが、そうしたことが影響を受けにくいことと関係しているのでしょうか。一方でヒグラシの鳴き始めは昨年と比べ10日ほど遅れました。ヒグラシは気温が低めで薄明時間に鳴くと言われていますが、気温が一旦上がらないと鳴くスイッチは入らないのではと想像します。これだけのデータでは科学的なことは何も語れませんが…。



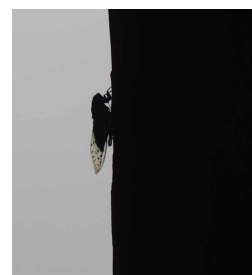
モウセンゴケ 2019/07/07



クサレダマ 2019/07/10



サギソウ 2019/07/26



鳴かないセミ 2019/07/22



7月20日(土) 保全活動 Photo 伊藤

南尾根階段整備



7月6日(土) 保全活動 Photo 藤本H

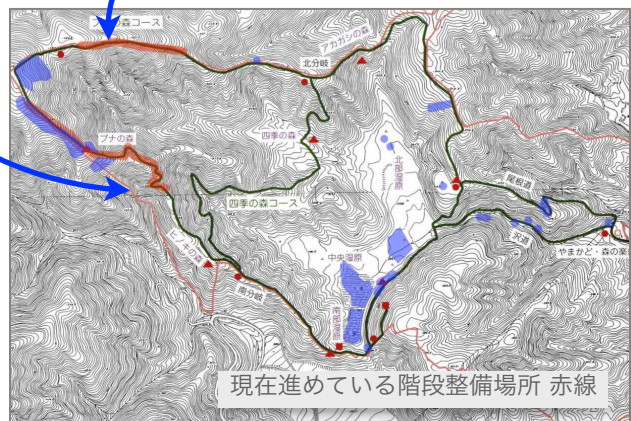
北尾根階段整備

雨の合間を縫って進む 階段整備

第一、第三土曜日の会員保全作業の日。今月はブナの森コースの階段整備をメインに作業を行いました。コース全域では1,000段を超える階段があり、毎年どこかで補修や改修整備を行っています。部材は間伐材などを利用してはいますが、3~5年程度しかもちません。特に急斜面や雪の積もりやすい斜面は傷みが早く、交換する期間も短くなります。持ちが悪いと近場で調達できる部材もなくなっていき、必然的に遠くから部材を運ぶこととなります。最近では運搬自体が一大作業になっているのが実情です。

部材調達が大変なのと、階段整備に食われる手間を少しでも減らしたいとの考えから、本来なら自然に戻る部材を使うのが望ましいのですが、しばらく前からブラ杭を使用するようになりました。これらも全て楽舎から会員による人海戦術で現場まで運搬しています。ブラ杭の耐久性は未知数ですが、現状より少しでも整備手間が省けることを期待しています。

今月はその他、付属湿地周辺の植栽の刈込みなど付属湿地周辺の整備も行いました。



現在進めている階段整備場所 赤線



7月6日(土) 作業を終えて Photo 藤本H

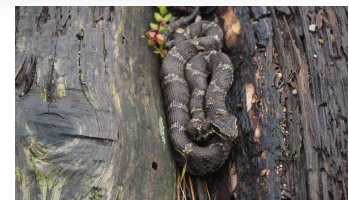
今月の森の様子



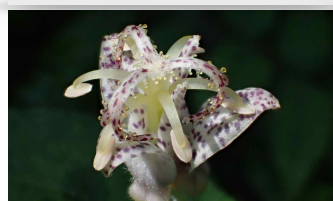
刈込みをしてスッキリした付属湿地 7/20



タマツノホコリ 7/3



毎度定位置のマムシ 7/22



ヤマジノホトトギス開花 7/26



オオイトトンボ 7/26